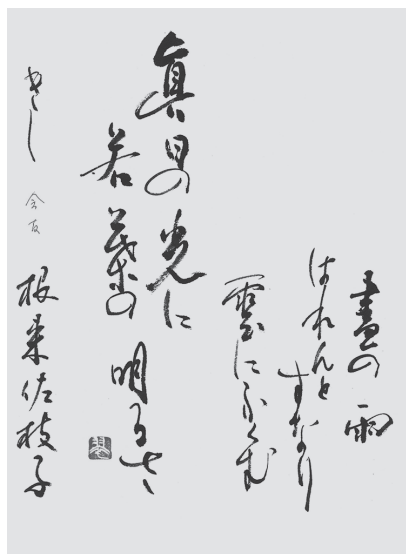


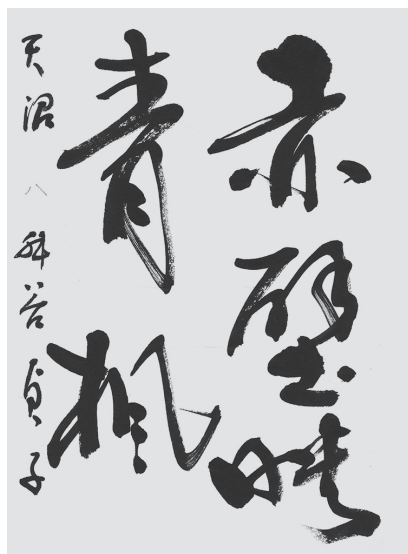
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



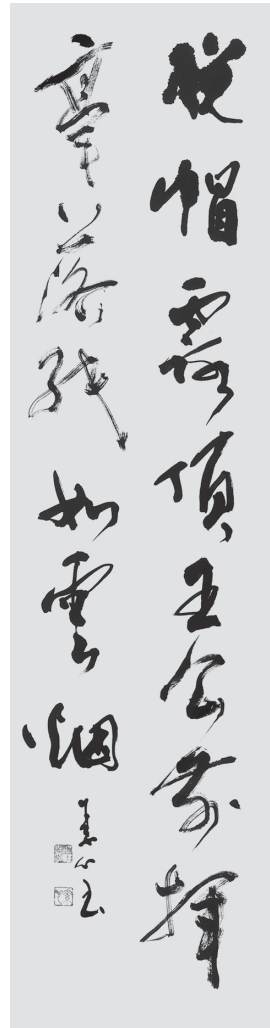
きし 根来 佐枝子 出だしの上部の余白と後半二行のおおらかで伸びやかな運筆が明るい。大きな落款印が引き締めている。
(審査評 二宮 桂秀)

【漢字半紙】



天沼 舛谷 貞子 力強さと繊細さが巧みに交錯し、大胆な構図でありながら余白の美しさが際立つ、すっきりとした構成の秀逸作。
(審査評 磯崎 香月)

【漢字条幅】



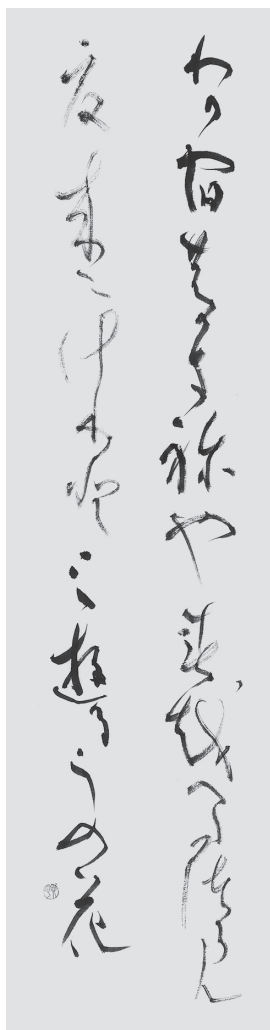
采女 熊野 素心 字大と墨の潤渇の変化が、心地良い行の響き合いを醸し出している。濃墨による余白を生かした明るい秀作。
(審査評 永井 香樹)

【新和様条幅】



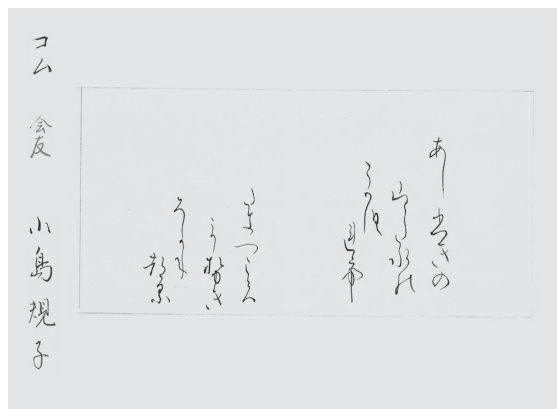
いち 榊原 由紀子 墨色、潤渇、字の大小、行間の余白などを留意され、多彩な線で作品を魅了している。一行目の「つつ」が読み辛い。
(審査評 東仲 遙郎)

【かな条幅】



東林 藤巻 桂泉 墨量の巧妙さ見事。沈着で奥深い線は多彩な変化を表わしている。息長い渴筆部も悠揚たる流動美を醸した作。
(審査評 中條 琳音)

【かな半紙】



コム 小島 規子 細線が明るく美しい。行の間隔や傾きを的確に捉えて、原本に近い見事な散らしを展開している。左下部「勢」「累」に重厚な筆致が入るとさらに良し。
(審査評 岩浪 春鳥)

6月提出の競書の写真版全作品は、6月26日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

今月の優秀作品

赤壁映
青楓
松戸 依田恒子

赤壁映
青楓
大書 橋本美恵子

赤壁映
青楓
そら 池田 吳可

赤壁映
青楓
小書 井上清美

赤壁映
青楓
小書 金沢 小川 孝子

赤壁映
青楓
南丘 小野千洲

赤壁映
青楓
小書 藤井 顯子

赤壁映
青楓
仙水 川口 凛々

赤壁映
青楓
小書 山崎 美南

赤壁映
青楓
小書 金沢 菅原 初子

歳次
戊戌
秋陽 五段 門真ふい子

赤壁映
青楓
小書 石渡 英津子

赤壁映
青楓
M 川口 美子

赤壁映
青楓
八代 洋公 大松 春新

赤壁映
青楓
加石 金友 森中 節子

歳次
戊戌
市書 五段 高木 栄子

赤壁映
青楓
加古 八段 大橋 由佳

赤壁映
青楓
書字 七段 北野 紫峰

赤壁映
青楓
水 八段 佐々木 幸子

赤壁映
青楓
八雲 月九段 三堂 茂

歳次
戊戌
生駒 五段 隅田 明美

赤壁映
青楓
書樂 六段 山家 栄風

赤壁映
青楓
雲月 七段 鈴木 裕子

赤壁映
青楓
水 八段 川上 綾鳥

赤壁映
青楓
下里 八段 神田 浩史

歳次
戊戌
書 五段 福島 一幸

赤壁映
青楓
書 五段 尾崎 官子

赤壁映
青楓
川書 五段 田中 玲翠

赤壁映
青楓
紅葉 五段 竹入 領代

赤壁映
青楓
紅葉 五段 渡辺 静枝



日報
安言
定辞
鳩岡淳子

五香
安言
定辞
八重森沙音

はき
其世
徳濟
出川奈都子

久我
其世
徳濟
加藤琴乃

連菜
其世
徳濟
友部満

書学
安言
定辞
浅香直美

春日
安言
定辞
寺門祐子

耕星
其世
徳濟
藤原春彦

耕星
其世
徳濟
監物勝雄

書学
其世
徳濟
小野佑里花

春水
安言
定辞
山本美穂子

書学
安言
定辞
深谷美久

野口
其世
徳濟
渡多野紗綾

春日
其世
徳濟
龍山玲子

彩
其世
徳濟
田代喜洲

書学
安言
定辞
伊藤照美

麻布
安言
定辞
金花佐和子

70
其世
徳濟
石川真由美

千麻
其世
徳濟
千葉広美

書学
其世
徳濟
清水真理

書学
安言
定辞
林幸子

容和
安言
定辞
金奈美

五香
安言
定辞
館野祐子

石鵜
其世
徳濟
石川真知子

玉城
其世
徳濟
中川昌代

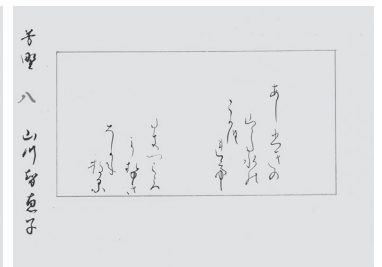
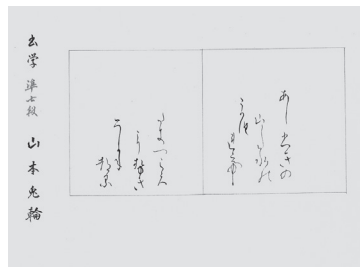
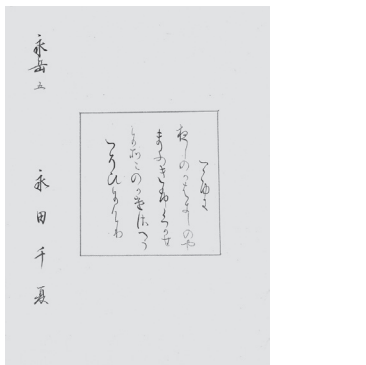
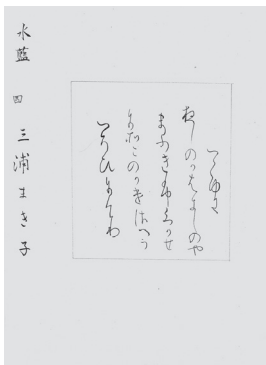
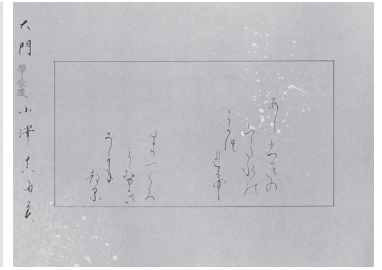
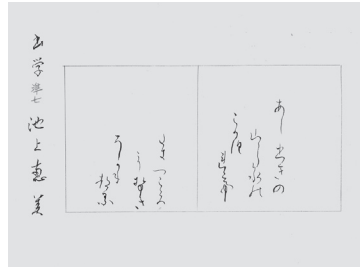
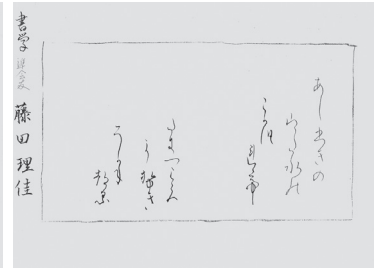
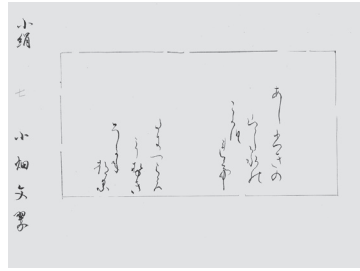
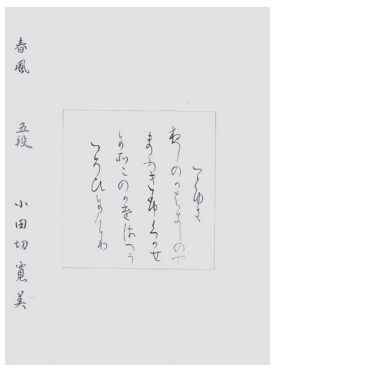
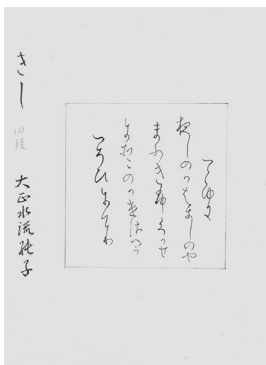
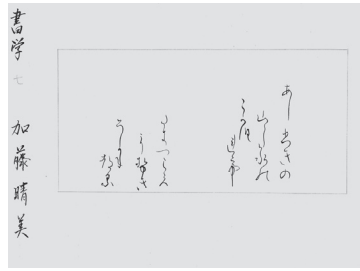
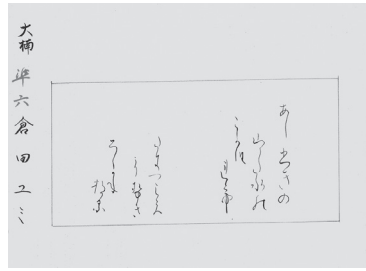
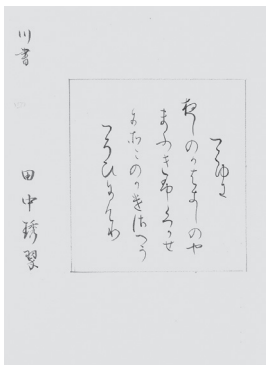
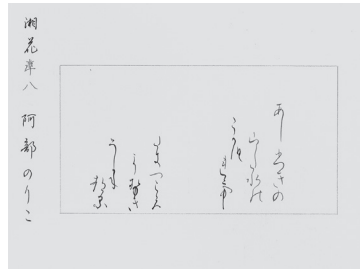
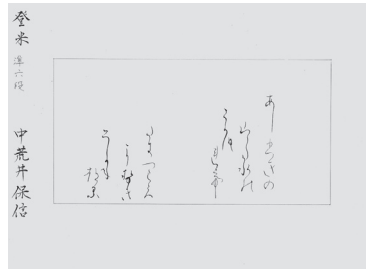
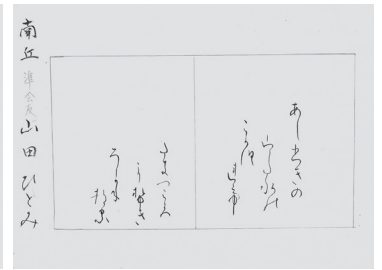
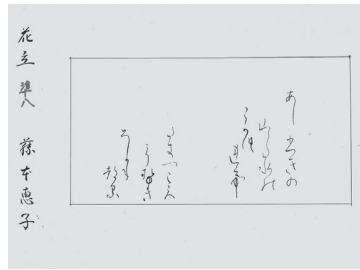
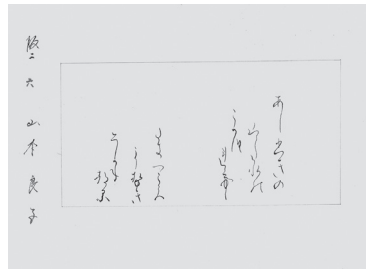
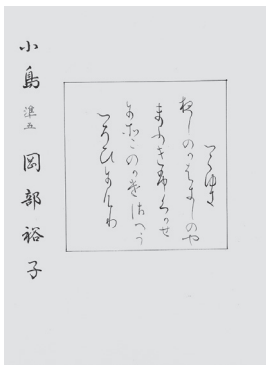
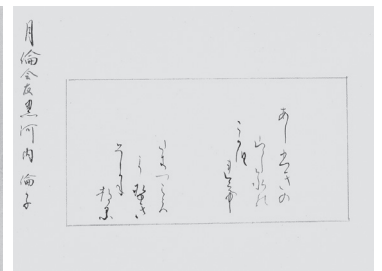
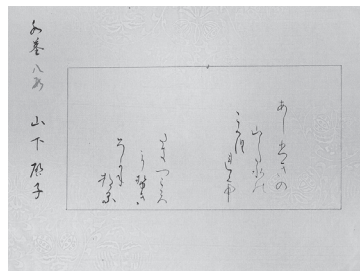
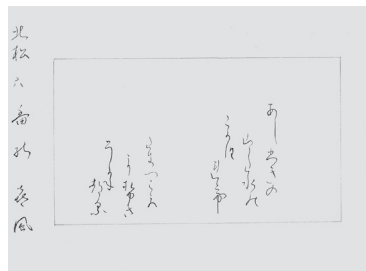
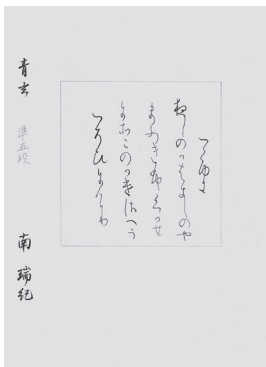
大風
安言
定辞
岩瀬淳子

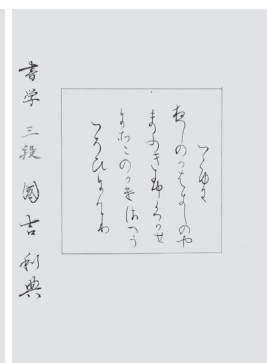
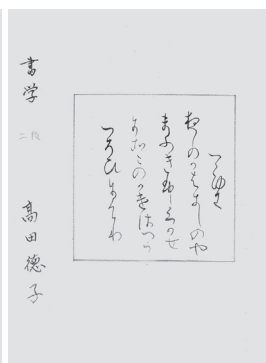
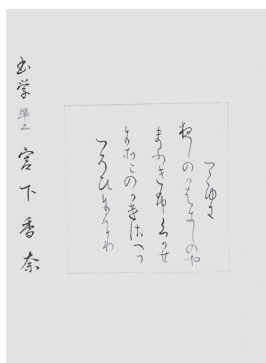
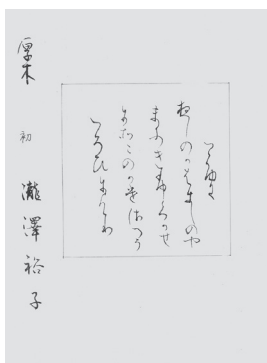
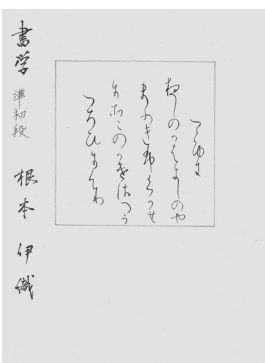
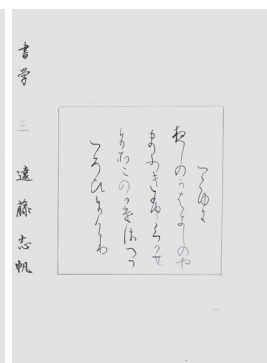
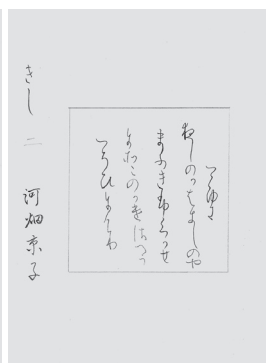
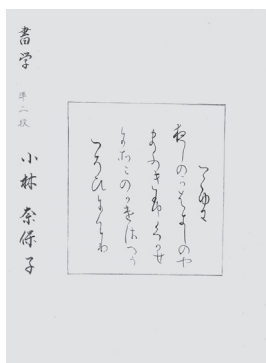
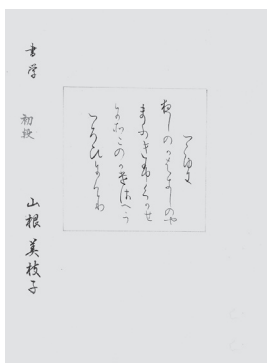
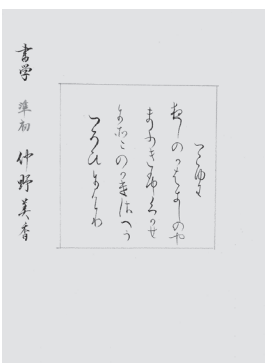
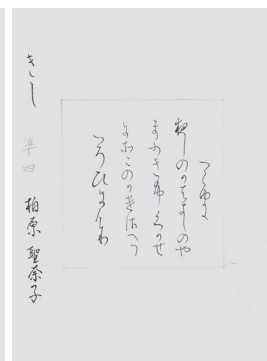
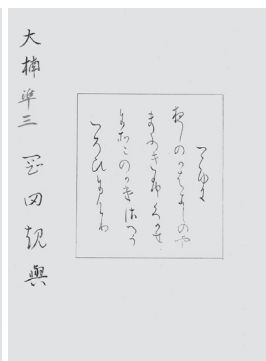
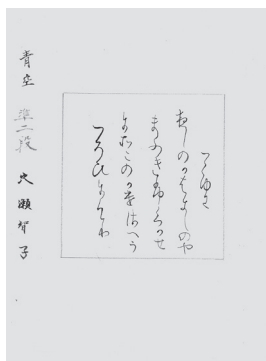
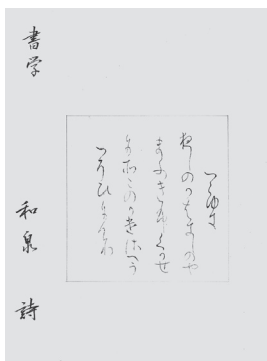
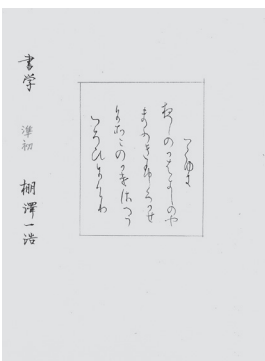
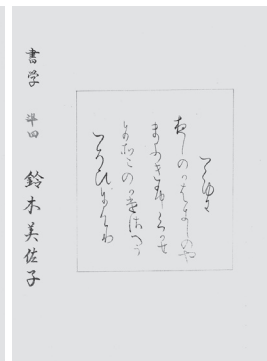
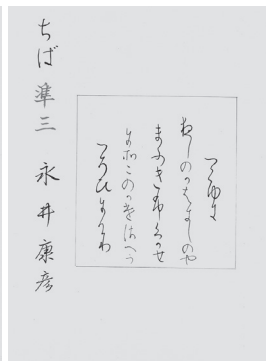
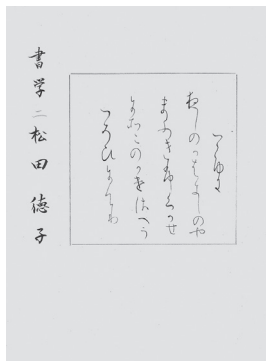
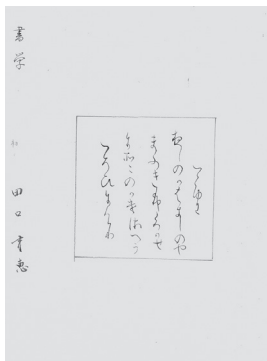
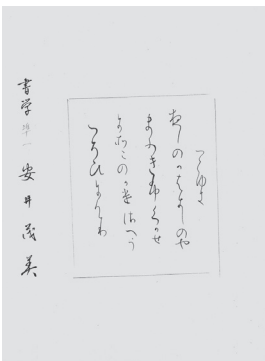
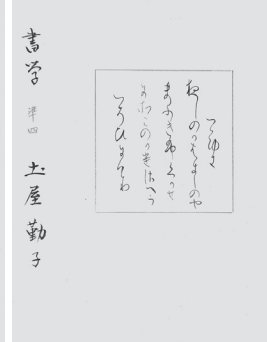
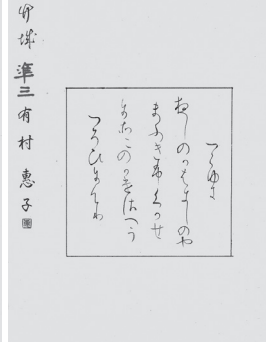
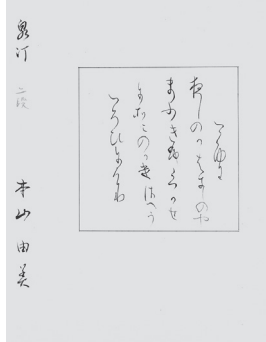
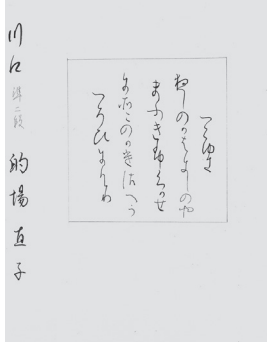
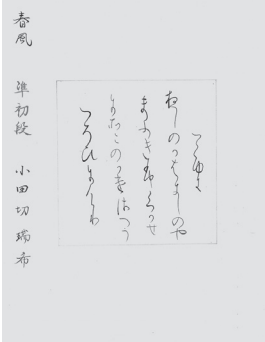
書学
安言
定辞
鈴木紫

二宮
安言
定辞
北原律子

書学
其世
徳濟
徳田友美

書学
其世
徳濟
安藤雅子





永岳 高橋千舟
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

翠
大越 始美
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

長淑
牧野 孝子
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

書学
河村 幸子
わかよたれそ
つねならむう

忠那
豊田 志穂
わかよたれそ
つねならむう

書学
浅野 由良子
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

青花
宇田 利加
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

海花
竹内 美佐子
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

白千
金澤 直子
わかよたれそ
つねならむう

風倫
三浦 希望
わかよたれそ
つねならむう

森 文
大坪 花
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

品濃
佐藤 清真
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

永岳
岩田 智恵子
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

天元
杉森 裕美
わかよたれそ
つねならむう

芝晃
喜多木 錦子
わかよたれそ
つねならむう

品濃
黒河内 美来
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

書学
佐野 和代
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

松原
矢野 瞳
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

書学
鈴木 悠
わかよたれそ
つねならむう

南立
宮崎 千也子
わかよたれそ
つねならむう

永岳
島田 佐和子
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

信念
小川 純子
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

大藤
岩清水 美子
とげねみねのうせふれ
わづれのをよりらんふれむ

信長
岡田 敦子
わかよたれそ
つねならむう

廣島
好田 敦子
わかよたれそ
つねならむう

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
水差 六 森美枝子

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
一第 七 村磯輝子

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
水差 八 中村真由美

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
鎌倉 連金 石田青珠

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
巴未 金友 依田蘭香

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
水差 八 甲坂辰吉

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
美書 連七 横内 紀子

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
書学 準八 小谷倫郁子

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
東西 準金 萩野智恵子

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
書者 金友 伊藤翼男

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
書学 準八 土居勤子

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
仙水 八 山口 康々

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
九書 八 山崎美須子

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
水差 八 神崎利佳

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
書学 金友 若園拓雪

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
水差 準六 益田優美子

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
紫泉 準七 雨宮 久美子

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
水差 七 坂東明美

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
遊山 八 牧岡牧子

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
水差 八 山崎 三郎

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
泉 八 小室孝子

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
書学 六 大野真理子

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ真日の光に
若葉の明るさ
永盛 七 岡部 瑛心

書の雨
はれんとすなり
雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
南丘 八 山田ひとみ

書の雨はれんと
すなり雲にふくむ
真日の光に
若葉の明るさ
神戸 金友 鳴瀬紫華

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

新書 五段 柳喜美江

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

水差 四 山田秋峰

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

青葉 作藤真理

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

佐伊 二 銀谷美子

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

欣書 五段 重雄信春

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

白砂 四段 木村 弘泰

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

書学 三段 森地 あり

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

水差 二 木村 弘泰

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

福筑 五 津田登起美

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

久我 四段 二宮祥葉

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

可書 三 大塚有莉

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

香港 二段 劉半輝

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

翠園 達五清水千代

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

糸島 準四 櫻井 多恵

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

書学 準三 板木 新二

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

書学 準二 川村 三彩子

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

書学 準一 田原 愛

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

悠峰 五段 飯田 悠一

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

香竹 準三 天笠利衣子

大海の底に
沈みて静かに
耳澄ましおる
目のあまべし

厚木 準二 瀧澤 裕子

今月の優秀作品

南草 友田将予
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

白千 金澤直子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

梧星 吉田令希
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

那ハ 杉田真也
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

セシ 井上美生子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

藤十 冷水一成
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

書学 荒井静枝
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

書学 清水陽子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

梧星 柿本八景
溪川の身を
揺りて夏
来るなり

悠 平山え子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

書心 前田朱里
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

書学 須賀純子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

書学 清水彩里
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

冲縄 上江洲 隆
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

MM 志田陽菜
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

南丘 宮崎千也子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

書学 鈴木奈
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

新潟 坂井元華
溪川の身を
揺りて
夏来るなり

大藤 望月典子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

梧星 監物秀雄
溪川の身を
揺りて夏
来るなり

大淵 香井子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

麻布 金花たけ子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

書学 常任幸記
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

書学 山根美枝子
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

長瀬 大脇夏菜
溪川の
身を揺りて
夏来るなり

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

コム 小島 規子

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

洗心 浅地 友子

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

万里 神之田澄水

額牛欄捨於分段之鄉騰遊无礙之境

書学 藤井 明美

額牛欄捨於分段之鄉騰遊无礙之境

書学 増田 堅三

青山横北郭

梧星 監物 秀華

青山横北郭

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

天沼 舛谷 貞子

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

水峯 川上 直子

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

松声 石川 祐子

額牛欄捨於分段之鄉騰遊无礙之境

九書 井上 恵子

額牛欄捨於分段之鄉騰遊无礙之境

書学 宮下 香奈

青山横北郭

梧星 岡本 恵泉

青山横北郭

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

小沼 大塚 恵一

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

水峯 神崎 利佳

脱帽露頂王公前揮毫落帛如雲烟

紅衫 高 ななみ

額牛欄捨於分段之鄉騰遊无礙之境

土呂 石原 京子

額牛欄捨於分段之鄉騰遊无礙之境

香竹 天笠利衣子

青山横北郭

梧星 和泉田生華

青山横北郭

初音 岡本 智子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

日暮 大唐美奈子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

邑心 森川 純子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

春風 渋谷 和子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

書学 江本真理子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

月倫 並木さおり

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

書学 清水 陽子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

東西 村澤 澄子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

長野 岸 久子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

永岳 蛭間 紀子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

祥瑞 萩原 奈々

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

書学 稲井田柏葉

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

書学 菊地 秋子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

書学 高見 咲紀

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

ちば 長瀬 好恵

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

横浜 浅野 薫

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

書学 藤村あゆみ

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

第一 奈良多津子

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

書学 佐野 和代

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

彩 瀬戸 紀水

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

松原 矢野 瞳

わが家のなまめがけのしほむ
友よめがけのしほむ

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

西宮 三橋 恵子

一葉 村磯 輝子

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

水荃 川上 直子

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

書学 山崎 幸恵

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

玉堤 江口 綾子

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

友和 遠藤 沙苑

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

新井 神崎 聖海

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

小沼 大塚 恵一

交墨 砂川 佳弘

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

千蔵 千葉 咲子

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

松声 浅野 壮子

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

游山 牧岡 牧子

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

びわ 内田 閑雲

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

九書 仲山由紀子

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

横浜 高山 華月

栄 山田 青楓

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

書学 森山 恵穂

群山は暮れむとつあな寂し
北空とほく日あたる山あり

大分 西林加奈恵

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

書学 久間砂登美

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

万葉 西原 恵子

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

湘花 高橋 佳子

卯の花の垣根ぬらして雨すぎし
灯ともしごろを訪ふ人のこゑ

教 室 名	
氏 名	C Y
氏 名	藤澤 岑風
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	湘 花
氏 名	阿 部 のりこ
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	風 倫
氏 名	法 嶋 絵美
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	白 庭
氏 名	廣 田 恵美子
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	大 塚
氏 名	久 保 愛智
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	建 中
氏 名	渡 邊 翠 月
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	た っ
氏 名	久 保 雪 莉
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	山 口
氏 名	村 岡 真由美
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	大 藤
氏 名	鈴 木 白 藍
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	福 山
氏 名	谷 川 かおり
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	唐 府
氏 名	原 田 洋 平
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

教 室 名	
氏 名	M M
氏 名	芳 賀 鳳 鳥
これといった品も思いつかずかわりばえしませんが とりたて、めずりくもございませんが お荷物になりましてはご迷惑と存じ	

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 棚田 恵子

子言我今亦欲見汝等師可共俱往於是二子從空中下到其母所合掌白母父王今已信解堪任發阿耨多羅三藐三菩提心我等為父已作佛事願母見聽於彼佛所出家循道今時二子欲重宣其意以偈白母
願母放我等 出家在沙門 諸佛甚難值 我等隨佛學 如優曇鉢華 值佛復難是 脫諸難亦難 願聽我出家 母即告言聽汝出家所以者何佛難值故

千翠 小宮富久子

子言我今亦欲見汝等師可共俱往於是二子從空中下到其母所合掌白母父王今已信解堪任發阿耨多羅三藐三菩提心我等為父已作佛事願母見聽於彼佛所出家循道今時二子欲重宣其意以偈白母
願母放我等 出家在沙門 諸佛甚難值 我等隨佛學 如優曇鉢華 值佛復難是 脫諸難亦難 願聽我出家 母即告言聽汝出家所以者何佛難值故

こて 伊藤 紫香

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

書学 細川 美帆

心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

九書 石橋 栄子

子言我今亦欲見汝等師可共俱往於是二子從空中下到其母所合掌白母父王今已信解堪任發阿耨多羅三藐三菩提心我等為父已作佛事願母見聽於彼佛所出家循道今時二子欲重宣其意以偈白母
願母放我等 出家在沙門 諸佛甚難值 我等隨佛學 如優曇鉢華 值佛復難是 脫諸難亦難 願聽我出家 母即告言聽汝出家所以者何佛難值故

佐野 千葉 悦子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

ぬま 齊藤 和菁

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中无色无受想行識无眼耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

厚木 田中 白妙

子言我今亦欲見汝等師可共俱往於是二子從空中下到其母所合掌白母父王今已信解堪任發阿耨多羅三藐三菩提心我等為父已作佛事願母見聽於彼佛所出家循道今時二子欲重宣其意以偈白母
願母放我等 出家在沙門 諸佛甚難值 我等隨佛學 如優曇鉢華 值佛復難是 脫諸難亦難 願聽我出家 母即告言聽汝出家所以者何佛難值故

九書 山崎美須子

審査評―秋山 凌雲

規定 「疑鳳舞」



島田 田村 潔

「疑」字に若干の難があるも金文を用い章法に優れた作。古鈍の趣が上手く表現されている。左の外郭は、分断しない方が良くように思われるが如何か。



書学 山本 兎輪

「舞」字を長く伸ばし、三字をあたかも四字かの如く見せる章法は流石。外郭も変化と重厚感があり、文字と調和している。



水室 青戸 佑きこ

外郭を亜字形としたためモダンな感じのする印である。白文印であるので、全体的にもう少し太く刻しても良かったか。

随意 「逃禪煮石之間(模刻)」



書学 嬉野 満利子

呉譲之の模刻。多少線の弱い所があるものの細部まで目が行き届き、特徴をよく捉えた秀作である。

規定 (禧)

審査評―石橋 鯉城

書美の真髄を求める漢字の一字書――



宮城 長嶋 翠月 やや右寄せにしながら偏旁の構成に一体化を見せ、草書の筆脈の流れを自然に表現。押印によって作品が安定した。

白根 豊岡 節子 大胆な筆運びで紙面を圧しながらも、墨の潤滑により明るさと立体感をみせる。雅印の収まりも良い。

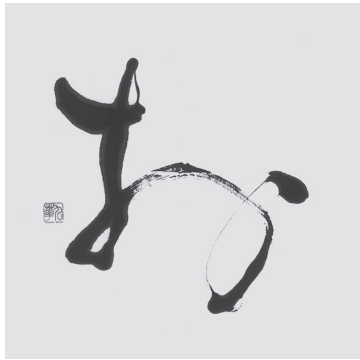
大門 片矢 菊枝 迷いのない一気呵成の運筆で、結体 構図が明快で見ごたえのある作品。押印を丁寧にした。

桑原 佐伯 政子 下部に広がりを持たせ全体を三角形に構成。含蓄に富む穏やかで変化のある運筆に味わいを感じる。

随意 (お)

審査評―石橋 鯉城

詩情や筆遣ひの極意を知る平かな表現――



水室 鶴淵 雅子 力まず自然な運筆ながら、筆の開閉による太細の変化がみられる。最終画の点が余白の白を引き立てた。

百合 外山 香風 起筆から線の方角を変化させ、渴筆を利かせて躍動感ある作品となった。押印の位置に一考を。

宮城 武田 清流 緊張感のある深い線と骨力豊かな表現に運筆の呼吸を感じる。押印の位置と押し方の工夫を。

書学 豊田 九華 穏やかな運筆と墨の潤滑により、伸びやかな曲線が紙面に広がった。点がアクセントを添えている。